

## 認知症初期集中支援推進事業（認知症初期集中支援チーム）について

### 認知症初期集中支援チームとは

認知症初期集中支援事業は、新オレンジプランの「認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供」の早期診断・早期対応のための体制整備として位置づけられている。

認知症初期集中支援チームは、原則として専門医（認知症サポート医でもある）、看護職、介護職の 3 人以上で構成され、以下のような活動を行う。

- ・認知症が疑われる人又は認知症の人やその家族を訪問する。
- ・観察・評価を行った上で初期の支援を包括的・集中的に行う。
- ・かかりつけ医と連携しながら認知症に対する適切な治療に繋げる。
- ・自立生活のサポートを行う。

### 本市での実施状況

- ・平成 28 年 1 月より、2 か所の認知症疾患医療センターにそれぞれチームを配置。
- ・対象区：中央区・南区 H28 年 11 月より、西蒲区の一部に区域拡大。
- ・実施状況：次ページの表のとおり。
- ・効果：医療に対して早期の対応ができた。  
医療連携がスムーズに行えた。  
専門の医療スタッフが関わることでケースを多角的に捉えることができた。  
介護サービスにつなげられた。

### 【問題点】

- 中央区、南区及び西蒲区の一部のみが対象であり、全市の対応ができていない。なお、20 市中 15 市の政令指定都市にて全市域の実施または実施予定となっている。
- チームの調整役として対応する職員（精神保健福祉士等）が病院の業務と兼務であることで、タイムリーな対応が難しい場合がある。

### 【今後の認知症初期集中支援チームに関する基本的な方針案】

- ・認知症初期集中支援チームの全市展開を図る。
- ・現状の相談件数に鑑み、1 チームが 2 区を担当することとし、2 チームを増設する。
- ・各チームにコーディネート業務を主とするチーム員を置き、広範囲（2 区）へのタイムリーな対応ができるようにする。
- ・広範囲（2 区）の対応となるため、各区のサポート医に協力を求める。

## 認知症初期集中支援チーム実施状況(平成28年1月～平成29年9月)

①		相談件数	支援対象者	支援終了者	支援対象外	検討中(保留)
	みどり病院	48	25	15	23	
	白根緑ヶ丘病院	22	15	12	6	1
	合計	70	40	27	29	1

②	訪問支援対象者 性別 (N=40)	
	男	12
	女	28

③	訪問支援対象者に至らなかった理由 (N=29)	
	配偶者の入院等環境変化	2
	家族が介入を拒否	3
	医療につながった	5
	サービスにつながった	5
	状態が落ち着いた	1
	助言のみで支援	2
	他機関見守り	3
	症状悪化にて入院	4
	認知症ではない	4

④	訪問支援対象者 世帯構成 (N=40)	
	独居	8
	夫婦のみ	13
	子と同居	19

⑤	訪問支援対象者 対象分類 (N=40)	
	医療・介護サービスを受けていない または中断している	34
	医療・介護サービスを受けている が、BPSDが顕著なため対応に苦 慮してる	6

⑥	年齢階層別・性別 訪問支援対象者 (N=40)							
		65歳未満	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳～84歳	85歳～90歳	90歳以上
	男	1	0	2	0	7	2	1
	女		1	3	8	11	3	1
	計	1	1	5	8	18	5	2

⑦	要介護度別 訪問支援対象者 (N=40)				
		未申請	要介護1	要介護2	要介護3
	計	26	8	5	1

⑧	初期集中支援の訪問回数 (N=27)								
		1回	2回	3回	4回	5回	7回	9回	10回以上
	計	5	5	6	2	4	2	1	2

⑨	初期集中支援終了に至るまでの期間 (N=27)								
		1～5週間	6～10週間	11～15週間	16～20週間	21～25週間	26～30週間	31～35週	36週～
	計	1	1	5	3	6	1	2	8

⑩	初期集中支援終了後の生活の場所 (N=27)			
		在宅継続	入院	入所
	計	21	4	2

⑪	初期集中支援終了後の引継先 (N=27)					
		介護支援専門員	包括支援センター	MSW	小規模多機能	その他
	計	14	8	2	1	2

⑫	効果(複数回答)	
	他の機関につながった	14
	専門医を受診	11
	介護保険サービス導入	13
	家族のケアが適切に変化	5

## 認知症初期集中支援チームの全市展開（案）

- ・新しく2チームを設置し、4チームで全市対応する（1チームが2区を担当）
- ・各区のサポート医にも協力を求める。

